

平成30年度第1回桑名市総合計画審議会 会議概要

日時・場所	平成30年11月29日（木）13:30～15:30 桑名市役所 3階第2会議室
出席者	委員：7名 市：3名 事務局：5名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 自己紹介 4 議案 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度「桑名市民満足度調査」結果について (2) 桑名市総合計画 後期基本計画の策定について (3) その他 5 閉会
概要 (主な意見)	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 自己紹介 4 議案 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度「桑名市民満足度調査」結果について <p>【事務局より概要説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答率が上がったということは市民の皆さんの市政に対する関心が上がったということなので、この結果を肌身に感じて受け止める必要がある。 ・まちを元気にするためには、利便性や回遊性の高いまちづくりが必要であり、観光・商業分野への支援を手厚くした方がよい。 限られた財源の中で難しい運営になる部分も多いと思うが、施策の進捗や税金の使途について、市と住民の間で具体的に共有化がしきれていないのではないかと不安を感じることもある。 可能な限り具体的な情報提供に努め、さらに風通しのよい市政になるとよい。 ・昨今ベトナム人の方が急増している。また、陽だまりの丘に工場が出来たことにより、家族で転入してみえるブラジル人の方も多。 今年実施された、外国人対応の防災訓練等への参加者も多かったところだが、防災に限らず様々な分野でのフォローが必要である。 ・言語を絞っての対応が難しい場合、「やさしい日本語」を使っでの対応を試みてもよいと思う。 ・農業施設の老朽化が課題である。異常気象が続いており、想定外の災害も危

惧されるので、対策が必要である。

- ・中心市街地に力を入れると同時に、中心市街地以外の周辺住民が不便を感じることはないように、公共交通行政にも力を入れ、両輪で推進した方がよい。

- ・満足度調査において「自家用車を使用する」人の割合が前回比で減少しており、それらに起因して公共交通分野の重要性が高まっているとも推測できる。

- ・不満を唱える方々の、本当の困りごとは、案外身近な小さなコトなのかもしれない。

満足度調査の結果から原因をしっかりと分析し、結果の裏にある住民の想いをよく推し測って、市政に反映させてほしい。

- ・満足度調査において若年層はどのような回答だったのか、回答数が少ない中だが、傾向でも分かれば教えてほしい。

若い世代が今の桑名をどう見ているのか非常に興味があるところ。

- ・子育て分野について、お母さん世代のニーズを行政まで届けることは容易ではないのだが、桑名市では民間団体が非常に活動しやすくなっており、NPO団体などが間に入ってお母さんたちの声を行政に届けることができている。

ハード面も整っており転入してきたお母さん世代の評判もよい。

- ・企業で働いているお父さん世代をターゲットに、なるべく子育てに関与していただけるよう啓発する講座を集中して行うなど、働くお父さん世代が子育てについて学ぶ機会があるとよい。

- ・妊娠期から出産、産後まで切れ目のない支援が必要。

国も大変力を入れているところだが、海外などでは、出産直後から子どもの心の発達などに至るまでの長いスパンについてまとめた冊子がもらえるところもある。

妊娠期から乳児期、子育てまでの知識を網羅できるような冊子や講座があれば、きっとお母さん世代の助けになるはずである。

- ・乳児期のお子さんを持つ親世代に防災の意識を持ってもらうことが重要。

支援センターでは、防災用の備品をストックしている。

子ども用や女性用のグッズが置いてあるだけでお母さん世代の安心感につながる。

高価ではあるが液体ミルクも販売されているので、取り入れてもよいかもしれない。

目にとまることで、波及効果も得られると思うので、先進的にそれらの備品を導入すれば、お母さん世代の関心が集まると思う。

昨今、ママやパパ向けの防災講座なども盛況であり、注目の分野である。

- ・お母さん世代の情報の受け取り方は、ほとんどがアプリ経由なので、情報発信の方法も桑名独自にアプリ経由で提供出来ると、しっかりと情報が行き届くと思う。

- ・若年層の回答の少なさは、市政に対する興味のなさとも考えられるので、問題である。

スマホ等の普及により、紙ベースで回答を募ることは難しくなっているのかもしれない。

この満足度調査については定期的な定点観測の意味合いもあるので継続して実施するとして、それを補完するために、若い世代だけの意見を集めるとよい。

例えば子育て分野など、若い世代が関心の高い分野に注力し、もっと簡単なアンケート形式で SNS を介して回答をいただくなど、手法を検討する必要がある。

・社員旅行の添乗などで、外国人就労者の若者と話す機会が頻繁にあるが、桑名には娯楽が少ないという声が多い。

率直な意見として、外国人が遊ぶ場所がないと言われる。

駅前などで外国人の方が集まって飲んでいる姿もあまり見かけないが、外国人の若者たちに聞くと「高い」「入りにくい」とのことである。

これからアジア各国の人口は日本を越え、国も介護分野への外国人労働者の受入れを拡げるなど、外国人人口は急激に増えるので、外国人の方が余暇を充実させられるコミュニティの創出などについて、企業や組合にも力添えをいただく必要がある。

・財政状況が厳しい理由が市民に伝わりにくい。

桑名市では企業進出も一定進んできており、活気もあるように感じられるので、財政の厳しさはイメージしにくい。

企業や会議所等が協力できることがあるかもしれないので、情報提供をお願いしたい。

・様々な整備について、ゴールとなる供用開始時期が明確に示されていると、市民はそれまで我慢できる。

駅前整備や下水道事業など大きな事業ほど出来るだけ詳細に時期を示すとよい。

・まちづくり協議会が発足したが、自治会により温度差があり、暗中模索のところもある。

滋賀県では、住民が主人公となる仕組みづくりに 8 年を費やし成功している事例もあるので、時間をかけてでもじっくり進めてほしい。

・高齢になってくると、免許を返上せざるを得なくなってくる。

コミュニティバスの乗客の少なさを揶揄するような声も聞こえてくるが、公共交通機関のあり方をよく検討してほしい。

・曜日と行先を絞ってニーズを集約させた運行が実現できると効果があるのではないか。

例えば海南病院には木曾岬町や飛島村行きの福祉バスが通っているが、利用者が多いのでうまく回っている。

また、木曾岬町では朝や夕方にバスの本数を集中させ、学生の利用者もうまく取り込めているように感じる。

・一概に不便と言っても、それぞれの地域や人により感じる不便さは千差万別。行政が想像する不便さの原因よりも、案外もっともっと小さな部分で感じる不便さにより、公共交通を利用しなくなっているのかもしれない。

そのような想像力を大切に、住民の声を丁寧に拾って出来ることから解決してほしい。

そうすれば大きな施策を行わなくても、満足度が飛躍的に向上するかもしれない。

・様々な要望がある中で、桑名市民がこのまちを誇りに思っ盛り上げることが出来るようなまちになると良いと思う。

そのためには、まずは玄関口の整備から宜しくをお願いしたい。

	<p>(2) 桑名市総合計画 後期基本計画の策定について</p> <p>【事務局より概要説明】</p> <p>(質疑、意見等なし)</p> <p>5 閉 会</p>
担 当 課	市長公室 政策経営課